



▲良いバイオリンを作るため、全ての工程を大切にしています

JR糸崎駅近くのバイオリン工房。この工房でバイオリンを作るのは、岡山県出身の三原博志さん45才です。

三原さんがバイオリンに出会ったのは30歳のころ。「趣味が欲しかった。4本の弦で簡単だと思った」と軽い気持ちでバイオリンを習い始めました。

「小さな楽器からなぜこんな音が出るのか」。バイオリンの構造に強い興味を持つようになりましたが「自分で調べても答えは出ず、人に学ぶしかないと思った。どうせやるなら仕事にしたい」と思い切って製

作の道に進むことを決断しました。勤めていた会社を退職し、専門学校で製作の基礎を学びました。

「本場でバイオリン作りを極めよう」。そう決意し、卒業後はイタリアに留学。製作学校に入り、バイオリン作りに打ち込みました。

留学1年目に現地のコンクールに作品を出品しましたが、入賞できませんでした。理由が分からず、入賞作品を何度も観察しました。「音だけではなく、見た目も重要だということに気付いた」と三原さん。これをバネに、楽器の形や材質など、見た目の美しさにもこだわるようになり、翌年のコンクールでは2位に入賞しました。

その後、学校で講師をしてい

た有名バイオリン職人にその才能を見いだされ、工房で修行するよう誘われます。

学校に通う傍ら彼の工房で修行を重ね、技術や感性を磨きました。

三原さんは4年前に帰国。知人から借りた空き家を自宅兼工房に改装し、自分の工房を開きました。

オープン当時に比べるとお客さんも増えたと三原さん。「弦楽器の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」という思いを胸に、今日も工房でバイオリン作りに励みます。



バイオリン作家

みはらひろし  
三原博志さん

## 若者 × 情熱

ミハラのチカラ

STORY 26

### 弦楽器の魅力をもっと多くのの人に

※このコーナーでは、スポーツや文化・芸術活動などに情熱を注ぐ若者や子どもたちを紹介します。

## 春風

おかだとしゆき

撮影者 岡田敏行さん

撮影エピソード

散り始めたサクラと新緑の風に吹かれて元気に泳ぐこいのぼりに出会い、季節を感じ撮影しました。



### 写真・絵を募集しています

#### テーマ

～あなたが残したい三原の風景～

応募資格 市内在住・在勤・在学の人

選考 秘書広報課で選考

※応募作品の著作権は市に帰属し、市の公式フェイスブックで紹介させていただく場合があります。

※応募作品は返却しません。

申し込み 郵送またはEメールで写真(L判・データ)か絵(大きさは画用紙A3サイズまで)と①名前②住所・電話番号③撮影・制作日④撮影・題材場所⑤作品名⑥作品エピソード(70字以内)を秘書広報課(〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848・67・6007 ③hishokoho@city.mihara.hiroshima.jp)へ



●撮影年月 平成30年4月  
●撮影場所 白竜湖付近